

第66回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、「出土資料と漢字文化研究会」（平成26年度科学研究費補助金（基盤研究（B））定例研究会との共催です。

「非発掘簡」を扱うために

発表者：大西克也教授（東京大学）

1994年の上海博物館蔵楚簡以来、嶽麓書院蔵秦簡、清華大学蔵戦国簡、北京大学蔵漢簡・秦簡等、研究機関が市場から直接購入、あるいは寄贈を受けるという事例が急増しています。2001年に上博楚簡の出版が始まった当初は真偽が取りざたされ、清華簡にも疑いの声は皆無ではありません。にもかかわらず、これら「非発掘簡」が学界において一応の地位を得て盛んに研究され、多くの成果が生み出されています。このような状況下、私たちは非発掘資料に対して、どのような態度で臨めば良いのでしょうか。出土した竹簡がどのような工程を経て整理され、私たちの手に写真として届けられるのか、どのようにして竹簡の真偽は推認されるのか、従来一部の関係者の間にしか伝えられなかった情報が、近年公開され始めているのは喜ばしいことです。

第66回目を迎えた今回の研究会は、大西克也教授（東京大学）が担当し、関連諸論文に基づき2000年を経て出土した竹簡に起こる化学変化のしくみや脱色・脱水工程、放射性炭素年代測定の問題点等を整理し、合わせて用字研究の視点から、「非発掘簡」をできるだけ「安全に」扱う方法を検討します。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2014年5月24日（土）午後2時～午後5時

場所：日本女子大学百年館高層棟8階815会議室

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 山東大学教授
池田知久 電話：03-3926-8568